

## 研修会

### 大網白里海岸の生き物 ハマヒルガオの咲く頃

高橋多美子（四街道市）

日 時：2010年5月29日（土）10～15時 天気 曇り

参加者：12名

講 師：上田弘子氏

「ハマ」のつく海浜植物に会いたくて大網駅に参集。今日のガイドは地元の上田さんです。曇り空ではあるが晴れ女が多いのでなんとかなるさと出発。

夏は混雑する大網街道をまっすぐ白里海岸へ急ぐ。ゴミのないきれいな海岸を白子方面へ歩き出す。さっそくハマダイコンの残り花と実（瓢箪形）を観察する。コウボウシバ、ハマニガナを後にして、潮の引いた砂地の突堤のコンクリートにびっしり付着したムラサキイガイや牡蠣、その間をチョロチョロするカニの姿にカメラを向ける。空にはコアジサシがホバリングしながら狙いを定めて海面にダイビング。うまく獲物をキャッチしていました。

砂浜では砂茶碗をルーペで覗く、皆さん卵が見えましたか？ キラワレモノのツメタガイの卵でした。ここはアカウミガメの産卵場所でもあるそうです。

海岸から堀川沿いに出るとゴミの番人、排水機場があり、川からのゴミを堰きとめ回収している。煮干の天日干場は天気がパッとしないので干されてはいなかつたが、匂いは微かにしました。

陸側の道をUターンする。この季節、白い花が目立つ、シャリンバイ、スイカズラ、イボタノキなど…、ヤマグワの実を摘みながらコバンソウの道を行く。

また海岸に出てハマエンドウ（1ヶ所だけ）、ハマボウフウ（花と実が見られた）、コウボウムギ（根を掘って見る、筆になるかな？）、ハマヒルガオの群落は見頃で浜をピンクに染めていました。これも根を掘ってみると横に太い根が這い、節のところから砂に挿すように細い根が出て葉もついていました。種も沢山落ちていました。この辺は天然ガス、ヨードが採集されるそうで、その工場もありました。ハマニンニクは確かに根元の葉はソックリでした。

「智恵子の碑」でランチタイム、「サンライズ九十九里」でトイレタイム、帰り道はカラスノエンドウの笛を吹きながらヒメコバンソウの優しげな風情を愛でる。

午前中はサーファーの姿、午後はパラセーリングの赤や緑の人工物が空に舞う浜で、オモイガイならぬワスレガイを拾う人もいました。またヨツアナカシパンという面白い名前のウニの仲間の殻も珍しかった。

番外としては「十枝の森」に寄り、大正三年生まれの主を訪ね、浮世離れした佇まいと饗樂としたお人柄に皆一様に感嘆の様子でした。

「しおかぜ」に吹かれ少し寒かったが、充実の16643歩の研修会でした。